

# お札で買い物をする

—理解力・判断力の低下への対応

認知症  
しち・はち・きゅう  
789  
みんなであそんで  
試して

お札で買い物をする

認太郎…主人公 (認知症)



認太…息子



知子…嫁



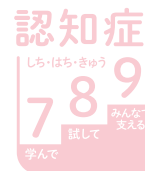
認左衛門  
…認太郎一家のご先祖  
守り神、お助けマン



\*いつもうまくいくわけではありません。

# お札で買い物をする

## —理解力・判断力の低下への対応



### 中核症状 (必ず現れる症状)：理解力、判断力の低下

認知症状が進行していくと、理解力や判断力が低下し、判断速度も遅くなります。

買物に行き会計が670円だったとき、健常者であれば、お金の価値をすぐに理解して「500円玉1枚+100円玉1枚+50円玉1枚+10円玉2枚」と、硬貨を数えて出すことが可能です。しかし、認知症状が進んでいると、お金の価値がそもそもわからなかったり、どの硬貨を何枚出せば支払えるのかを計算する力が低下しており、とまどってしまうことが多くなります。さらに、お店の人との会話のスピードについていけなかったり、急かされたりすると適切に判断することが難しくなり、結果、つい「お札」で買い物をするようになります。

このケースのポイント

どうすればいい？

#### 対応法 ①

本人や家族が安心できる懇意のお店に、小銭で支払えるようなお手伝いをお願いしてみましょう。



#### 対応法 ②

本人が使えるなら、プリペイドカードなどを利用するのも一つの方法です。



#### 対応法 ③

買い物に行くこと自体は生活の活性化につながります。同行するなどして、さりげなく支援しましょう。



買物で小銭を使った支払いが難しくなるのは、左頭頂葉の障害や前頭葉の障害による「注意障害」「作動記憶障害」が関係します。単純な計算が正確にできなくなったり、繰り上げなどを伴う複雑な計算や連続的な計算が難しくなります。

毎回お札で買物をすることで、生活費が足りないと訴えたり、貯金をどんどんおろしてしまうということもあります。

小銭で財布が大きくふくらんでいたり、家のあちこちに小銭が溜まっていることも多いです。本人が自覚していることはあまりないので、了承を得てからお札に両替して、改めて本人に渡すのもいいでしょう。

なぜそんなことをするのかと短絡的に怒るのではなく、本人の状況をよく見て、できることとできないことを見極め、ていねいに対応することが大事です。

— 川上医院 川上 俊幸 (もの忘れ相談医)

医師からのアドバイス

